

< 高付加価値型農業の実践を行っている事例 >

米の有機栽培で高付加価値化

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川 ^{かなざわし} 県 ^{たわら} 金沢市 ^い				
協定面積 5.5ha	田(100%) 水稲	畑	草地	採草放牧地	
交付金額 116万円	個人配分			43%	
	共同取組活動 (57%)	集落担当者活動経費			4%
		集落マスタープランの将来像を実現させるための活動経費			6%
		鳥獣害防止対策、水路農道等維持・管理等共同取組経費			35%
	農用地の維持・管理活動費			9%	
	事務費等			3%	
協定参加者	農業者 16人、非農業者2人				

2. 取組に至る経緯

本集落は、年々高齢化が進み、60歳以上の農業従事者の割合が増え、今後の耕作継続が懸念されることから、平成9年度に生産者5名により集落営農組織を設立し、「集落内の農地は集落で守る」という体制づくりに取り組むこととした。さらに本制度を活用し、農業者、非農業者が集落ぐるみで、水路・農道等の維持管理活動を行っている。

また、安全・安心で高品質・良食味米（売れる米）づくりの安定生産が求められていることを踏まえ、平成10年度に生産者と農協とで組織する「有機稲作部会」に集落内の3名が加入して、有機栽培に取り組むこととした。

3. 取組の内容

有機稲作部会において栽培指針を策定し、指針に基づき実践している。部会としては、検討会、栽培講習会等、年8回程度の活動を実施しており、巡回による生育状況の診断や、管理方法等の改善、見直しを図りながら、生産性向上に努めている。設立時に3名であった集落内の部会員は、本制度の協定締結を機に3名加わり、現在は6名が取り組んでいる。



堆肥の散布状況



有機栽培米のほ場

[集落の将来像]

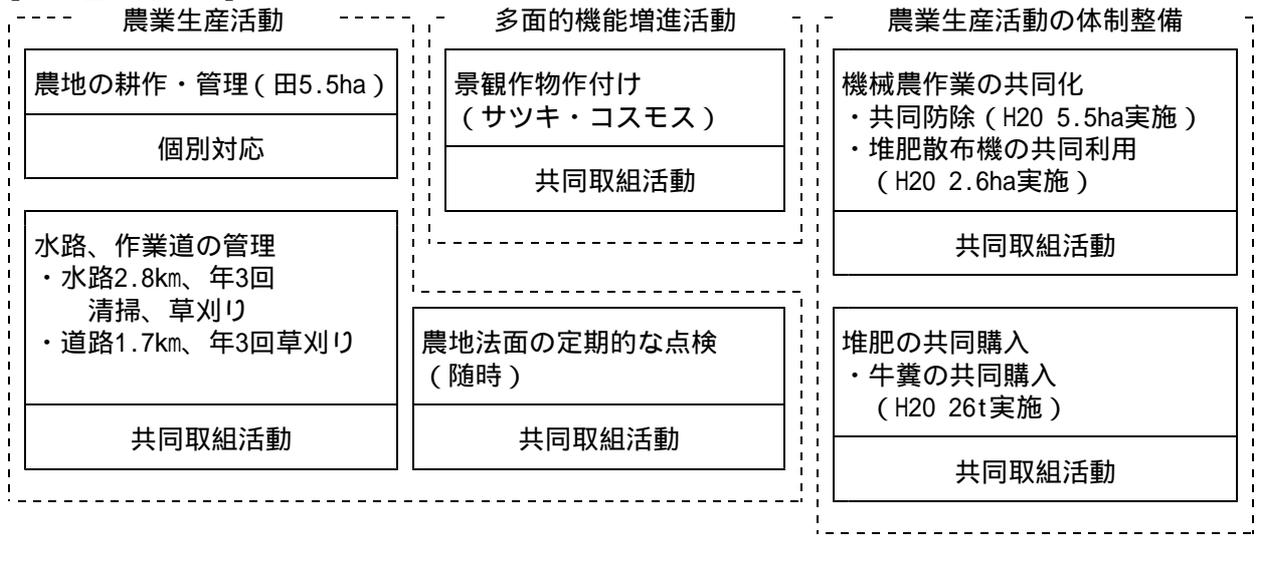
将来に渡って、集落内の農地を安定的に維持していくための体制を整備していく。集落連携のさらなる強化を図り、作業の省力化、農業所得の向上を目指す。



[将来像を実現するための活動目標]

有機稲作部会の部会員を増やし、有機栽培面積を拡大する。
石川県の「エコ農業者」の認定者を増やす。(現在6名、目標10名)

[活 動 内 容]



集落外との連携

基幹用水路である赤山用水の草刈り、江ざらい、清掃等の維持管理を地域全体で行っている

4 . 取組による変化と今後の課題等

有機栽培に取り組むことにより、堆肥の共同購入や堆肥散布機の共同利用等、共同活動による作業の効率化や、集落内の連携が図れるようになった。今後は地区全体へ有機栽培を拡大し、有機栽培米の安定的な生産を目指し、地域農業の発展に取り組んでいく。

[平成20年度までの主な成果]

高付加価値型農業の推進 (当初1.3ha、目標1.6ha、H20実績2.6ha)

- ・共同防除 (H19,20実績5.5ha (全農地))
- ・堆肥 (牛糞) の共同購入 (23t (H19) 26t (H20))
- ・堆肥散布機の共同利用 (2.3ha (H19) 2.6ha (H20))